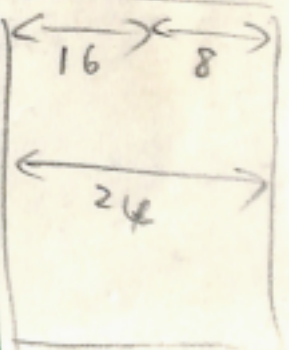


No. _____

No. _____



永遠にまわり続ける鉄の独楽佐川英三

大滝清雄

佐川英三を思う時、何故ともなしに、禅坊
 主のような素朴で力強い印象を受け、地味
 で堅実で、自らを表面に出せようとせず、それ
 だけで動かない自信を持ち、陰で世界を支え
 ている。そんな大きな精神を感じさせる。

日本未来派がゆるぎない歩みを進んで来る

大滝清雄用箋

ことができた長い間のも、この佐川の発行人
 として陰の力が大きであ。たのはあかろうか。

わたしが、初めて佐川英三の名を聞いたの
 は、戦争中、昭和十一年のころであ。大
 東の大陸の戦線で負傷し、東京の日本赤十
 字病院に還送されて、療養中、戦場で書いた
 詩をまとめ、詩集を出せうと寺田弘と相談し
 ていたが、そこで寺田から、佐川英三の詩集
 「戦場歌」の二つを聞いたので、た。

寺田からこの「戦場歌」を借りて